2017 年度 「卒業研究」 成果物の提出にあたって

2017 年 映像学部

2017 年度映像学部 4 回生および 5 回生 (未修得者) は、必修科目である「卒業研究」において、「論文」または「制作物および解説論文、小論文」いずれかの成果物の提出が必要となります。提出に関する詳細は、以下を参照してください。

1. 卒業研究 科目概要 (シラバスより抜粋)

講義科目と実習科目によって獲得した知識と技術を総合し、学部における学習の総仕上げとして卒業研究を完成させる。内容としては、映像分野に関する論文、または映像分野の作品とその解説論文とする。論文または作品については、そのテーマ設定から完成まで「映像文化演習 I・II」を通じて担当教員が日常的に指導し、全学生が提出できるように学部全体で支援をおこなう。卒業研究は、本学部における「学びのフィールド」である「映像テクノロジー」、「映像制作」、「映像文化」、「映像プロデュース」の 4 領域ごとに設置する。

○ 成績評価方法：平常点評価 100%

授業への参加および口頭試問を含む、成果物の総合評価により成績評価を行う。「論文」もしくは「制作物+解説論文、小論文」とする。各クラスの成果物の形態については、担当者の指示に従ってください。

(備考)

(1) 「授業への参加」による成績評価

「卒業研究」の取り組み姿勢について、評価を行う。

(2) 「成果物」の成績評価

成果物の成績評価については、指導教員を主査とし、さらに主査と相談のうえ決定された副査による複数体制において、1) 構想提出、2) 中間講評を経たうえで、最終的に口頭試問を行い、制作・研究のプロセス全体にわたって行われることとなる。基本的には以下のような評価基準にはかり、審査を行う。

- ① テーマの妥当性
- ② 既存作品・研究との関連性
- ③ 情報ソースの適切性
- ④ 内容の厳密性・緻密性
- ⑤ 手段の厳密性・緻密性
- ⑥ 創造性・独創性

2. 卒業研究において成果物を提出するには

「卒業研究」受講生の皆さんは、所属するクラスによって「卒業研究」の成果物の形態が異なります。必ずクラス担当者(主査)に、いずれの形式なのかを確認してから作成してください。

「卒業研究」で成績評価を受けるまでの流れは以下のとおりです。

工 程	内 容
受講登録／履修開始	開講までに制作・執筆の計画を立てましょう。 (「卒業研究」は、原則として映像学部事務室が受講登録をおこないます。ただし、5 回生以上の学生は各自で受講登録をしてください)
構想提出	「卒業研究題目届」の提出に先立ち、「構想の要旨」を作成し提出します。「構想の要旨」の内容や体裁は、クラス担当者の指導を受けた上で作成し、クラス担当者に提出します。
主査および副査発表	「卒業研究」の成績評価における主査(※)および副査が発表されます。 ※主査はクラス担当者となります。
「卒業研究題目届」提出	「卒業研究」における「題目」を提出します。 ※必ず、クラス担当者の指導を受けたくうえで、題目を決定し提出してください。
中間講評	制作あるいは論文の執筆における進捗を確認するために、「論文または制作の要旨」を作成・提出し、「中間講評」をおこないます。「論文または制作の要旨」の内容や体裁は、クラス担当者の指導を受けた上で作成し、クラス担当者に提出します。
成果物提出	体裁を確認し、 <u>2部</u> 提出します。余裕をもって作成し提出しましょう。
口頭試問	口述試験をおこないます。

3. 成果物の体裁について

体裁については、クラス担当者(主査)が点検します。したがって、窓口・提出会場で受け付けられた成果物でも、クラス担当者(主査)によって体裁上の不備が発見された場合は、口頭試問の時点でF評価となることがありますので、注意してください。

(1) 成果物が「論文」の場合

用紙の指定	A4 版白紙・縦長
縦書・横書の指定	横書き
文字数に関する指定	1 行あたりの文字数:指定なし 1 頁あたりの行数:指定なし
枚数などに関する指定	本文 12,000 字以上 (題目、目次、注、参考文献、表、謝辞は含まない) 総字数を明記する。
その他の注意	学生本人のみの執筆による単著であること。

(2) 成果物が「制作物＋解説論文、小論文」の場合

「制作物」とは映像を用いた作品、制作であることを基本とする。

【解説論文、小論文】

用紙の指定	A4 版白紙・縦長
縦書・横書の指定	横書き
文字数に関する指定	本文 4,000 字以上（題目、目次、注、参考文献、表、謝辞は含まない）総字数を明記する。
その他の注意	学生本人のみの執筆による単著であること。 共同制作であった場合でも、解説論文、小論文は必ず全員が提出すること。

【制作物】

フォーマットなど	大学には DVD として成果物を提出する。 ただし、フォーマットに関してはクラス担当者(主査)の指示に従う。
注意事項	・共同制作の可否については、クラス担当者の指示に従う。 ・DVDなどのメディア本体に、学生証番号および氏名を記入すること。 ・DVDなどのメディアは「解説論文または小論文」と合冊して提出することを基本とする。 ・メディアを袋状のケースなどに入れて綴じる場合は、開口部にセロファンテープで封をするなどメディアが抜け落ちないようにすること。

(3) 表紙・体裁について

「論文」または「制作＋解説論文、小論文」のいずれも、「綴込表紙」（長辺綴じ。論文などを黒い紐を用いて綴じる黒い表紙で、生協などで販売されています）を用いて製本し、所定の項目を記載した“表紙シール”を必ず鑑にしてください。“表紙シール”に記載する項目は以下のとおりです。

【表紙の記入事項】

- ① 題目
- ② 所属クラス
- ③ 担当教員（主査を記入してください）
- ④ 成果物の形態（「論文」または「制作物＋解説論文、小論文」）
- ⑤ 学生証番号
- ⑥ 氏名
- ⑦ 総字数（本文のみ。題目、目次、注、参考文献、表、謝辞などは含みません）

※“表紙シール”は、映像学部事務室で配付します。

【表紙 記入例】

「卒業研究題目届」で予め提出した“題目”を記入する。

映像学部 卒業研究	
題 目	〇〇について
所属クラス	01
担当教員(主査)	〇〇 〇〇
成果物の形態	論文
学生証番号	191108XXXX-X
氏 名	立命 太郎
総 字 数	12,000 字

綴込表紙

※ 成果物は、必ず2部提出してください。1部だけの提出はできません。成果物が「制作物」の場合は、「制作物」、「解説論文または小論文」をそれぞれ2部提出してください。

4. 提出期限および提出にあたっての注意事項

(1) 「卒業研究題目届」

成果物の形態(「論文」または「制作物+解説論文、小論文」)を問わず、「卒業研究題目届」の提出が必要です。なお、「題目」とは、論文や制作にかかわる内容の要約文や、作品のタイトルではありません。

提出期限：2017年7月19日(水) 17:00 提出先：映像学部事務室

提出は窓口時間内です。期限は厳守してください。遅延提出は認められません。

※ 「卒業研究題目届」は映像学部事務室で配付します。「卒業研究題目届」で提出した題目は、「論文」または「解説論文または小論文」の必要記載事項です。コピーをとるなどして、忘れないようにしてください。

※ 一度、提出した「卒業研究題目届」を、返却または差替えすることはできません。

※ 題目の変更については、クラス担当者(主査)と相談の上、題目届変更受付期間内に必ず手続きをしてください。

(2) 成果物（「論文」または「制作物＋解説論文、小論文」）

成果物は、2部提出してください。1部のみの提出はできません。成果物が「制作物」の場合は、「制作物」、「解説論文または小論文」をそれぞれ2部提出してください。

提出期限：2017年12月18日（月）17：00 提出先：映像学部事務室

提出は窓口時間内です。期限は厳守してください。遅延提出は認められません。

- ※ 提出の際は、学生証が必要です。
- ※ 必ず本人が持参してください（郵送不可）。
- ※ 成果物の体裁が整っていないと受理できません（「3.成果物の体裁について」参照）。また、成果物が1部のみでも受理できません。必ず2部提出してください。
- ※ パソコンなど電子機器の故障が原因で提出が遅れた場合、一切受け付けません。日常からバックアップ処理などをおこない、締め切り当日のプリンター打ち出しやコピーなどは避け、日程に余裕をもって仕上げるようにしてください。
- ※ 本人の傷病、忌引き、交通事情により期間内に提出ができない場合、あるいは遅延する場合は、事前に映像学部事務室に連絡、相談するようにしてください。事前連絡・相談があったケースで且つやむをえないと判断できる場合に限り、申請書、証明書類（医師の診断書、死亡に関する証明書、交通機関の延着証明書）を提出のうえ、教授会の審議により提出の延期を許可する場合があります（全てが許可されるとは限りません）。なお、締め切り当日の突発的な傷病が発生した場合でも、提出期限17時までには連絡をしてください。
- ※ 予測不可能且つ緊急の事態などで、どうしても締め切り当日までの提出が困難になった場合は、自分で判断せず、必ず事前に映像学部事務室に相談してください。事前連絡・相談がない場合は、事後の対応が不可能になります。単なる体調不良など個人的な理由では、遅延理由として認められませんので、日程に余裕をもって提出してください。
- ※ 一度、提出した成果物を、返却または差替えすることはできません。

5. 口頭試問について

提出された「論文」または「制作物＋解説論文、小論文」について口頭試問（口述試験）を行います。口頭試問は、1月下旬から2月上旬に実施予定ですので日程については、十分留意してください。

なお、試験教室に資料の持ち込みをすることはできません。成果物の持ち込みについては、その形式も含め、クラス担当者（主査）の指示に従ってください。

6. スケジュール

(1) 4回生以上で「卒業研究（通年）」を受講する場合

日程	内容
2017年4月	受講登録、履修開始
2017年4月28日（金）10：00 ～5月1日（月）11：00まで ※前期受講登録辞退受付期間	「卒業研究」受講辞退届受付 ※辞退にはクラス担当者の承諾が必要。 ※辞退届は、事務室にて配付します。
2017年4月～5月末	構想提出、題目決定（クラス単位）
2017年6月21日（水）	副査発表予定（CAMPUSWEB）
2017年6月21日（水） ～7月5日（水）	学生、主査、副査の三者間での① 題目の確認 ② 構想内容の査読 ③査読内容のフィードバック
2017年7月6日（木）～7月19日（水）	中間講評に向けた指導（クラス単位）
2017年7月6日（木）～7月19日（水）	「卒業研究題目届」受付
2017年7月19日（水）	2017年前期セメスター授業終了
2017年9月26日（火）～10月20日（金）	中間講評（クラス単位） ※具体的な日程は、クラス担当者（主査）の指示に従ってください。
2017年11月8日（水）～11月14日（火）	「卒業研究題目届」変更受付 *変更する題目については、クラス担当者（主査）に必ず事前に相談しておくこと。
2017年12月11日（月）～12月18日（月）	成果物受付
2018年1月上旬 ※教授会で確定次第発表のため、予定より早く発表する場合あり。	口頭試問日程発表
2018年1月下旬～2月上旬	口頭試問
2018年2月中旬～2月下旬	研究成果報告会

●2016年度の4回生後期から1年間留学または休学し後期復学する場合は、中間講評以降の内容を2017年度スケジュールに合わせて行います。

(2) 5回生以上で前期に「卒業研究」の成果物を提出する場合

5回生以上の学生で「卒業研究」を前期セメスターに集中して履修し、前期に成果物を提出する場合は、以下のスケジュールとなります。

日程	内容
2017年3月23日(木)	後期成績発表・履修ガイダンス
2017年4月	受講登録、履修開始
2017年4月1日(土)～4月15日(土)	「卒業研究題目届」受付 ※前期集中履修の受講が認められれば、受講登録は事務室が行います。
2017年4月中	構想提出、題目決定(クラス単位)
2017年4月28日(金) 13:00	副査発表予定(CAMPUS WEB)
2017年6月1日(木)～6月9日(金)	中間講評(クラス単位)
2017年6月21日(水)～6月27日(火)	「卒業研究題目届」変更受付
2017年7月6日(木)～7月17日(月)	成果物受付
2017年7月中旬	口頭試問日程発表
2017年7月下旬～8月上旬	口頭試問

※具体的な日程はクラス担当者(主査)の指示に従ってください。

<注意点>

- ・ 「卒業研究」を前期に履修し、成果物を提出する場合(5回生以上に限ります)は、予め履修計画を立て、クラスの担当教員に相談のうえ、所定の期間(2017年度の場合は、4月1日～4月15日に「卒業研究題目届」)を提出してください。
- ・ 「卒業研究」を前期に履修し、成果物を提出したにもかかわらず、「不合格(F)」の成績評価がされた場合は、後期以降に、改めて「卒業研究」の受講登録をしてください。「卒業研究」を2017年度の後期セメスターで集中して履修し、成果物を提出する場合は、改めて受講登録をおこなう必要があります。この場合は、後期受講登録修正期間(後期履修ガイダンスの際に日程を案内します)に、映像学部事務室に必ず受講登録要否にかかわる連絡をしてください。
- ・ 仮に、前期提出の成績評価が「不合格(F)」であった場合で、後期において「卒業研究」を受講する場合は、前期と後期あわせて「8単位」受講登録することになります。受講登録単位数には十分注意してください。

以上